

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成24年5月15日
【四半期会計期間】	第39期第1四半期（自平成24年1月1日至平成24年3月31日）
【会社名】	株式会社スタジオアリス
【英訳名】	STUDIO ALICE Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 川村 廣明
【本店の所在の場所】	大阪市北区梅田一丁目8番17号
【電話番号】	(06)6343-2600
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 宗岡 直彦
【最寄りの連絡場所】	大阪市北区梅田一丁目8番17号
【電話番号】	(06)6343-2600
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 宗岡 直彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第38期 第1四半期連結 累計期間	第39期 第1四半期連結 累計期間	第38期
会計期間	自平成23年1月1日 至平成23年3月31日	自平成24年1月1日 至平成24年3月31日	自平成23年1月1日 至平成23年12月31日
売上高(千円)	5,371,411	5,495,060	34,107,813
経常利益(は損失)(千円)	401,499	605,102	5,855,550
四半期(当期)純利益(は損失)(千円)	509,610	550,738	2,680,505
四半期包括利益又は包括利益(千円)	482,570	505,362	2,801,455
純資産額(千円)	11,854,196	13,805,922	15,138,222
総資産額(千円)	19,190,376	22,149,613	22,980,558
1株当たり四半期(当期)純利益金額(は損失)(円)	29.66	32.06	156.03
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	60.3	60.8	64.2

(注)1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式が存在しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は記載しておりません。

4. 第38期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、当第1四半期連結累計期間において、上海豊匠服飾有限公司を新たに設立し、連結の範囲に含めております。この結果、連結子会社は4社となりました。また、新たに設立した子会社の報告セグメントは「衣装製造卸売事業」であります。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### （1）業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、東日本大震災により影響を受けた厳しい状況から、企業の生産活動の回復や震災の復興需要を背景に緩やかな回復傾向にあるものの、海外景気の下振れや原油高等の悪化懸念により、依然として先行き不透明な状況にあります。

このような状況のもと、当社グループは、主力であるこども写真事業において、競合他社と明確な差別化を図り、お客様に選んでいただけるお店になるための取り組みをおこなってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は5,495百万円（前年同期比2.3%の増加）、営業損失は627百万円（対前年同期242百万円の損失増加）、経常損失は605百万円（対前年同期203百万円の損失増加）、四半期純損失は550百万円（対前年同期41百万円の損失増加）となりました。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### （こども写真事業）

こども写真事業は、前年同様、「桃の節句キャンペーン」、「入園入学キャンペーン」、0歳～10歳のお子様を対象とした「みんななかよし撮影会」を中心に撮影件数の獲得を図るとともに、本格的な入園入学シーズンに向け、3月16日～3月22日の間、全国CMを放映いたしました。また、こども写真館以外の新たな取り組みとして、3月14日、京都梅小路公園内の「京都水族館」にアミューズメントスタジオをオープンいたしました。

これらの取り組みにより、フランチャイズ店舗を含む全店の撮影件数は、前年同期比で117.2%となり、開店1年以上経過した既存店の撮影件数は115.0%となりました。

国内の出店状況は、新規出店3店舗、退店1店舗を行い、次世代型への改装を34店舗実施いたしました。

当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、国内こども写真館410店舗（直営店舗400店・フランチャイズ店舗10店）、ペット写真館1店舗、韓国の子会社におけるこども写真館4店舗、合併会社における台湾のこども写真館3店舗と中国のこども写真館2店舗を含め、420店舗となっております。

以上の結果、こども写真事業の売上高は5,440百万円（前年同期比7.9%の増加）、セグメント損失は643百万円（対前年同期324百万円の損失増加）となりました。

#### （衣装製造卸売事業）

衣装製造卸売事業は、高品質でデザイン性の高い衣装を企画・生産していく一方で、子会社である株式会社JVISと株式会社豊匠の2社で分担していた機能を株式会社豊匠に集約し、更なる生産コストの低減を図るための体制づくりに着手いたしました。

以上の結果、衣装製造卸売事業の売上高は152百万円（前年同期比68.9%の減少）、セグメント損失は19百万円（対前年同期37百万円の損失減少）となりました。

#### （2）財政状態の分析

##### 資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末と比べ830百万円減少し22,149百万円となりました。

流動資産は、法人税等及び配当金の支払い等により、前連結会計年度末と比べ1,632百万円減少の10,293百万円となりました。

固定資産は、改装等による有形固定資産の取得等により、前連結会計年度末と比べ801百万円増加の11,856百万円となりました。

#### 負債の状況

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比べ501百万円増加し8,343百万円となりました。

流動負債は、短期借入金の増加等により、前連結会計年度末と比べ116百万円増加の6,645百万円となりました。

固定負債は、長期借入金の増加、資産除去債務の増加等により、前連結会計年度末と比べ384百万円増加の1,698百万円となりました。

#### 純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べ1,332百万円減少し13,805百万円となりました。

これは主に、当第1四半期純損失及び前年度の剰余金の処分（配当金支払い）などによるものです。

#### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき重要な変更はありません。

#### (4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,888,000
計	30,888,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年5月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	17,185,650	17,185,650	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	17,185,650	17,185,650	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年1月1日 ~平成24年3月31日	-	17,185,650	-	1,885,950	-	2,055,449

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が把握できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年12月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 6,200	-	単元株式数 100株
完全議決権株式（その他）	普通株式 17,161,400	171,614	同上
単元未満株式	普通株式 18,050	-	1単元(100株) 未満の株式
発行済株式総数	17,185,650	-	-
総株主の議決権	-	171,614	-

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
(株)スタジオアリス	大阪市北区梅田 1-8-17	6,200	-	6,200	0.04
計	-	6,200	-	6,200	0.04

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結会計期間（平成24年1月1日から平成24年3月31日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成24年1月1日から平成24年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,897,707	6,935,779
受取手形及び売掛金	770,186	817,502
たな卸資産	789,762	973,521
その他	1,515,173	1,620,219
貸倒引当金	46,550	53,650
流動資産合計	11,926,279	10,293,373
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,808,140	4,321,522
その他(純額)	2,538,554	2,768,253
有形固定資産合計	6,346,695	7,089,776
無形固定資産	540,712	567,795
投資その他の資産		
敷金及び保証金	2,831,164	2,851,383
その他	1,477,942	1,485,621
貸倒引当金	142,235	138,335
投資その他の資産合計	4,166,871	4,198,669
固定資産合計	11,054,279	11,856,240
資産合計	22,980,558	22,149,613
負債の部		
流動負債		
買掛金	323,779	277,878
短期借入金	1,350,000	1,950,000
1年内返済予定の長期借入金	73,332	443,332
未払法人税等	1,195,585	138,561
関係会社整理損失引当金	181,000	166,434
その他	3,404,801	3,669,007
流動負債合計	6,528,498	6,645,213
固定負債		
長期借入金	36,670	548,337
退職給付引当金	410,543	425,539
資産除去債務	385,605	392,991
その他	481,018	331,609
固定負債合計	1,313,837	1,698,477
負債合計	7,842,335	8,343,690



	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,885,950	1,885,950
資本剰余金	2,055,449	2,055,449
利益剰余金	10,924,541	9,600,730
自己株式	9,222	9,222
株主資本合計	14,856,717	13,532,906
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	99,137	65,265
その他の包括利益累計額合計	99,137	65,265
少数株主持分	380,642	338,282
純資産合計	15,138,222	13,805,922
負債純資産合計	22,980,558	22,149,613

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)
売上高	5,371,411	5,495,060
売上原価	4,429,743	4,720,839
売上総利益	941,668	774,220
販売費及び一般管理費	1,326,963	1,401,659
営業損失( )	385,294	627,438
営業外収益		
受取利息	908	878
受取家賃	8,142	6,577
為替差益	-	13,442
雑収入	7,617	11,604
営業外収益合計	16,669	32,502
営業外費用		
支払利息	9,327	8,133
店舗解約損	9,568	-
為替差損	8,478	-
雑損失	5,499	2,033
営業外費用合計	32,874	10,166
経常損失( )	401,499	605,102
特別利益		
負ののれん発生益	-	3,262
特別利益合計	-	3,262
特別損失		
固定資産廃棄損	42,364	96,792
減損損失	4,603	136,652
ゴルフ会員権評価損	-	3,285
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	249,231	-
災害による損失	65,141	-
特別損失合計	361,340	236,730
税金等調整前四半期純損失( )	762,839	838,570
法人税、住民税及び事業税	42,569	113,372
法人税等調整額	310,114	408,350
法人税等合計	267,545	294,978
少数株主損益調整前四半期純損失( )	495,294	543,592
少数株主利益	14,315	7,146
四半期純損失( )	509,610	550,738

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失( )	495,294	543,592
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	169	-
為替換算調整勘定	12,554	38,229
その他の包括利益合計	12,724	38,229
四半期包括利益	482,570	505,362
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	498,336	516,867
少数株主に係る四半期包括利益	15,766	11,504

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第1四半期連結累計期間  
(自平成24年1月1日  
至平成24年3月31日)

(連結の範囲の重要な変更)

当第1四半期連結会計期間より、上海豊匠服飾有限公司を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間  
(自平成24年1月1日  
至平成24年3月31日)

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)

当社グループのこども写真事業では、主として第4四半期の撮影機会(七五三等)が多いため、通常、第4四半期連結会計期間の売上高は他の四半期連結会計期間の売上高と比べ、著しく高くなっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び前第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)
減価償却費	593,193千円	595,497千円
のれんの償却額	6,190	3,809

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年3月30日 定時株主総会	普通株式	429,485	25	平成22年12月31日	平成23年3月31日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月29日 定時株主総会	普通株式	773,072	45	平成23年12月31日	平成24年3月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	こども写真事業	衣装製造卸売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,042,032	329,379	5,371,411	-	5,371,411
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	160,761	160,761	160,761	-
計	5,042,032	490,140	5,532,173	160,761	5,371,411
セグメント損失 ( )	318,676	57,345	376,021	9,272	385,294

(注)1. セグメント損失( )調整額 9,272千円には、固定資産の調整額等45,131千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 54,404千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失( )と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	こども写真事業	衣装製造卸売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,440,613	54,447	5,495,060	-	5,495,060
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	98,059	98,059	98,059	-
計	5,440,613	152,507	5,593,120	98,059	5,495,060
セグメント損失 ( )	643,199	19,350	662,549	35,111	627,438

(注)1. セグメント損失( )調整額35,111千円には、固定資産の調整額等79,194千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 44,083千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失( )と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
(固定資産に係る重要な減損損失)

「こども写真事業」セグメントにおいて、工場及び店舗の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては136,652千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)  
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)  
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり四半期純損失金額	29円66銭	32円06銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	509,610	550,738
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	509,610	550,738
普通株式の期中平均株式数(千株)	17,179	17,179

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)  
該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年5月7日

株式会社スタジオアリス  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 西村 猛 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 藤川 賢 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社スタジオアリスの平成24年1月1日から平成24年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成24年1月1日から平成24年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年1月1日から平成24年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社スタジオアリス及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。